

ふりーとーきんぐ

富士スバルライン・タイムトライアルにつ

いて書けとの御達しだが、時間もないし

僕が今考えていることについて、勝ち

気ままに書きつづること許してくれ

たまえ、何しる勝ちに書く程、楽な事

はないかよ。

さて、僕は、今年一年間部長を務め

て、よれが了も解放されほ。としている

ところだけれど、グータラ部長か、を

ことだけは確かかと思、ている。今に

な、て考えてみると、部長なんか僕に

は最も不適性だ、たのびはないだろ

うか。人にはよれがれ適しを役割が

「あ、て、自分にあ、を環境にあ、て初めて」

人は能力を最大限に發揮できる。その

ように考えると、僕を部長にしたのはみん

なり最大の失敗なのひす。

由話休憩。自己批判はこま位にして

僕が自分なりのサイクリングの方法は

ついで考えていることを書こう。僕に

は、クラブランよりもソロランの方が自分

に向いているよな気がこの頃する状。

もさるんクラブランなんかひワイワイと

楽しく走るのが好きな向きもあるうが、

これかよ、くまびも、僕の独断と偏見ヒ

満ちた考え方も述べてみたり。クラブ

ランとソロランは、全く違うディメンション

を持つサイクリングの方法だと僕は考ん

「ている。クラブランは、合宿に代表されてくるように、仲間同士で走り気楽さ、共に食いかつ寝るといった親密感があり、大学生生活の重要な人間形成の場を提供してくれている。それに反してソロランは、孤独に耐えて走りなければならぬ。もろんサイクリングとは、走っている間は、ソロである」とクラブランである」と孤独であるのだが、感動的な場面に会い、とても誰も語り合う友がいないのは、非常に寂しい。つまり、目に写り、耳に入るすべての物事が心の中に静かに沈黙し、堆積するような、自己陶酔型あるいは自己確立型の旅なのだろう。だが、ソロランにはそれなのに良さがある。

「ある。旅先での人との出会いがそれだ。」合宿では、仲間意識が強くなり過ちて他人と馴れ合いのものだが、孤独な仲間とは引力のよさに引き合うものだ。例えば、秋の試験休みはソロランにまともに打って付けの季節である。10月上旬には、標高2000m以上に存しないと紅葉が見えないのが残念だが、観光地には人影もなく、空はあくまでも高く澄み、まるで世界が自分だけのためのようであるように錯覚に落ち入る。行くも止まるもソロランに勝手良ままである。

僕は、去年・今年と2回秋休みを利用して、ソロランに行き、こきたが、どうも素晴らしい旅だったと思う。特に今年

「の場合、ツクリンダとしては失敗したが、一人旅としては収穫が大きかった。ソロウシだった。なぜ失敗と考えるか」と言うと、それは、八ヶ岳という山と、山岳サイクリングに対する認識が甘かったことに尽きる。北八ヶ岳は、自転車でも行けるという「ゴーストサイクリング」の記事を読んで今回のツクリンダを計画したのだが、それは、八月の安定した気象条件と、充分な体力の条件と、綿密な調査があって初めて可能になるものであった。試験直後の消耗した体力と、夜行列車での睡眠不足と空腹とが、松原湖から夏沢峠までの道程のほとんどを自転車を押し歩いたので

「あり。(決して自転車で乗れない道はない。)として峠の山小屋に転がり込んでから10分もたたないうちに横なぐりの強い雨が降り始め、そのうさに雪は交わった。もうさきと到着が遅れたら、体力の消耗も激しか、たしかひどい目に会っていた事だけは確かだ。翌日は雪の中を一日中、自転車をかつぎ続け、バテる寸前に麦草ヒュンヒュンに着いた。結局、北八ヶ岳縦走は、登山地帯のコースタイムの二倍位かかった。その位、自転車をかっいでの登山が、かかると言う前だと、思うかもしれないが、出かける前に僕が考えていたこととは、北八ヶ岳位を、自転車の乗れるところでもあるだろうかと、コースタイムより早く着けるだろうかと

「考えていたのである、とこれに僕がかった」

コースは、登山地図には危険な文字は

どこにもないので安心していたのだが、ど

こい、自転車をかっひでいると体のバランス

が崩れるので、何度か危ない思いをした。

その辺を充分に考慮すべきであったと

思う。悪い条件が重なれば、遭難と

まで行かざとも大怪我は避けたくな

か。たなう。山岳サイクリングに村する

認識が甘かったとしか言いようがない。

しかし、一人旅という面が考える

と、大河原ヒョウ子の変なおじさんや、

そこで知りあった連中とは今でも文通を

しているし、麻省の封切りはとじてても

だし、夕食も自分たうで作るさあをりで

クラブランとは違った楽しみがあった。

ソロランで得るものは、自己満足に過ぎ

ないかもしれない<sup>ツルカシ</sup>。どれでもいいと僕は

思う。唯、他人に不愉快を思いをさせな

ければ、色々ソロランについて書いて

きたが、こんな旅が出来ようたなう

たのも、クラブでの活動を通して得た

経験の積み重ねの結果である。つまり

クラブには、クラブの流儀というものが

あり、僕の指向している流儀が、クラブの

と少し違てきているよう手気がする

のだ。僕は、こまかすもずと、サイクリング

を趣味として大事にして行きたいと

思っているが、その方法を模索するとき、

何人々々によ、こ独自の流儀が存在する。

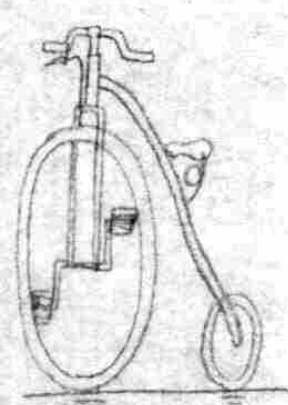
「と思う。クラブの流儀に従って我々は」  
 活動をしていり、訳だが、いっかといえど  
 けでは満足できない時が来るのでは  
 ないだろうか。よく聞く話だが、大学  
 のクラブ（この場合はサイクリングに限る  
 ない）に入っている人も、卒業してしまえ  
 ば、「ハイ、サヨウナラ」といった人が多い  
 と言う。入部する動機も色々ある  
 だろうし、一概には言えないが、もと  
 クラブでの活動を卒業後も続ける人  
 が多くてもいいのではないだろうか。  
 僕らのや、こいるサイクリングは、ある  
 意味において最も身近なスポーツでは  
 ないのか。そうい、たとき、自分たちの  
 楽しみ方を見出し、出していることが、サイ

「クリングを続けていく上で大きな変えと、  
 なるのたと思う。そう言った意味では、  
 サイクリングに限るが、何でも良いので  
 あって、常に何が新しい物を探め続けて  
 いく気持ち大切なのである。僕はこれ  
 かも、と、社会に出るころ、自転車  
 に乗る続けるつもりだ。何かを求めて、

乱筆・乱文にて失礼

1976.11.30.

野崎 信春



—ある日の部誌—

★10月28日(木) 朝 9時15分

1時向日の英語が休講なのだ。前学期単位を落とした英語だから今学期はがんばろうと思つて、昨夜一睡もして朝早く出て来たのだ!

工大隈もいよいよぞすな。1年生はがんばつて欲しい。こういう事を機会に団結を増すのはよい事だよ。徹夜するのもいいと思うけどな——。さて2年生は工大隈の時、何をしたらいいのだしょう。個人的希望を申すと、工大隈は信頼ある勇者ぞろろの1年生に完全にまかせて、逃げに「また」な——。

P.S. たゆがダニゴ屋へ行こうよ。 (知取)

★11月9日(火)

たゆがしかつた工大隈も終わり、冬ぞす。トレーニングの季節ぞす。諸君、明日はぎみ、とトレーニングをやるぞ。全員出席せよ。自転車学校はキャンセルせよ。なお、日吉自校のキャンセル料は500円ぞす。明日はトレーニングを圧倒的に実現する。とにかくやるのだ。見よ、この固い意志、たくましい肉体——(ニニでセントマッスル登場)

「世界は一家、人類は皆兄弟。健全なる肉体には健全なる精神が宿ります」

と云つてゐるうちに笹川良一が去ってしまったので、明日は雨が降る予定です。 (古木)